

韓国

光州広域市

ソウル事務所所長補佐 高本 真成 (愛媛県派遣)

正義感が強く義理固い市民気質から、1980年代には軍事独裁政権に断固として立ち向かった民主化運動の地として知られる光州。一方、数多くの学者、文人、芸術家を輩出した学問と芸術のまちでもあるほか、近年は先端産業の中核都市として目覚ましい発展を遂げています。民主化運動から20余年を経た今、市民の情熱は地域づくりに向けられており、光州は韓国で最も住みやすい都市と言われています。



光州広域市の概要

光州 (韓国名・クァンジュ) 広域市 (注1) は朝鮮半島南西地域に位置する地方都市で、ソウルから時速三〇〇kmを超える韓国高速鉄道 (KTX) で二時間弱かかります。もともと、現在この区間は高速線化されていない箇所が多いため、二〇一五年 (予定) に全線完成すれば、大幅に時間短縮される予定です。

人口は一四〇万人で、ソウル、釜山、仁川、大邱、大田に次ぐ韓国六番目の規模を誇り、南西地域では最大の都市です。面積は五〇一km²の自治区 (注2) と九一洞で構成されています。

市の北部には光州市民の心のふるさと「無等山」(二一八七m) の岩峰がそびえ、この一帯は緑豊かな道立公園に指定されています。光州地域は黄海海流の影響を受けるため比較的温暖で、年間平均気温は一二・六度、年間降水量は二二八九mmです。

かつて文禄・慶長の役の際には、ここ光州にて日本軍の攻撃を最後まで防いだという勇気ある愛国精神が受け継がれ、近年では一九八〇年、韓国の民主化を求め活動家や市民が軍事独裁政権に抵抗した「光州民主化運動」の地としても有名です。

政府が進める国家均衡発展政策では、光州四大戦略産業として、光産業、デジタル情報家電産業、自動車・先端産業、デザイン

ン・文化産業を掲げています。特に光産業は「二〇一〇年に世界五大光産業へ躍進」を目標に、国が力を入れてい

る分野の一つで、韓国光技術院をはじめ多くの研究機関が市外団地に集積されています。

海外地方自治体との交流では、仙台市、台南市 (台湾)、サンアントニオ市 (アメリカ)、広州市 (中国)、メタン市 (インドネシア) の五市と姉妹都市提携を結んでいます。

(注1) 広域市：日本の都道府県に相当する権限を持つ広域自治体。

(注2) 自治区：日本の市町村に相当する基礎自治体。

地域づくり

現在韓国では、政府を挙げて「住みやすい地域づくり」を推進していますが、光州広域市北区は韓国における地域づくりの先進地として、自治行政革新全国大会最優秀賞をはじめ数々の表彰を受けており、全国を代表する視察候補地でもあります。全国で最も住みやすい地域と言われる光州広域市北区の取組みを紹介します。



↑光州民主化運動 (1980年) 記念広場



↑新しく新築された市庁舎。中心部から地下鉄で結ばれている

○推進背景および概要

韓国では九〇年代まで政府主導による画的、開発方式の地域づくりが続いていましたが、住民による地方自治団体長選挙が始まった九〇年代後半から住民参加の機運が高まったと言われます。

北区では民選で当選した前区長が「住民自治住みやすい北区」をスローガンに掲げ、全国に先駆けて地域づくりに着手しました。一九九九年には全国初の地域づくり推進部署として総務課内に住民自治チームを設置、翌年には住民自治課（現…自治政策課）を新設しました。

二〇〇二年には住民や学者、市民団体との議論を経て「光州広域市北区美しい村づくり条例」を制定し、地域づくり事業支援

のため行財政面での根拠を明示したほか、地域支援センターの設置や地域づくり委員会の構成など支援体系を整備していきましました。

村づくり条例では、地域づくりを「住民自らが新しく生まれ変わり、住民間で心と心をつなぎ、共に暮らしていく地域共同体を創造するための活動」と定義しており、北区の特徴は、住民が地域づくりに参加できる場を提供している点です。

行政・住民・市民団体がパートナーシップを結び、行政はあくまでも財政面等のサポート役に徹しながら、次に紹介する三つの運動を展開しています。

1 美しい地域づくり

北区では、二〇〇〇年から、住民が日常生活で不便や苦痛を感じる問題を一つ二つ改善していく事業を始めました。毎年区が支援計画を作り、区内二六洞の住民自治委員会へ公募をかけます。提出のあった計画案を地域づくり委員会が審査・決定し、区が補助金交付を行うものです。

住民参加の機会を提供できるため毎年数多くの申請があり、二〇〇五年までに地域育成、文化芸術、住民便宜等の分野において二六〇以上の事業を展開しています。それら地道な区取り組みが認められ、全国自治行政革新全国大会で最優秀賞を受賞したほか、地域づくりの模範事例として各種マスコミ等で紹介され、北区の評価が確立されました。



↑ギャラリーや骨董品店が立ち並ぶ「芸術通り」。美しいまちづくりが進められている

2 地域リーダー養成

北区では、地域づくりを進めるに当たって人づくりを重視しています。地域づくりで重要なのは箱物を作ることではなく、住民一人ひとりの積極的な参加です。住民に意欲がなければ何事も前に進まないからです。住民の参加が始まった後には、住民間の関係や対話の持続性、住民の牽引などを行う上で、優秀な地域リーダーの存在が重要なポイントとして浮上してきます。

そこで北区は、八〇年以上の歴史を持つ光州YMCA（NGO）や大学等と連携し、講師が住民のもとへ直接出向く訪問式自治講座を実践しながら地域リーダー養成事業を行っています。



↑新開発地域として整備が進められる市庁舎前広場

講座では理論を詰め込むものではなく、遊び、楽しみながら学習していくものとして、日常生活での課題などに関して意見交換やプレゼンテーションを中心にしています。自分たちの地域を歩いて見て回り、よかつた点や改善すべき点を地図にチェックしていくなどユニークな作業もあります。これらを通じて出されたさまざまなアイデアから自分たちの理想とする地域像を描き、企画・実践していくのは地域リーダーの役割です。これまで数千人に及ぶ住民がこの講座に参

加しています。

3 地域共同体形成

韓国では住居環境の変化も大きな社会問題となっています。アパート等共同住宅の急増は地方都市である光州も例外ではありません。

共同住宅での生活はプライベートは守られ、多様な施設が集まるため、利便性は向上する反面、隣人との関係は希薄になるため摩擦も生じます。また、居住期間が短い場合もあり、住んでいる地域への愛着心は不足しがちです。

そのため、区では、アパート共同体等の住民組織が実施する住民祭りや主婦向け講座等連携事業を積極的に支援することにより、希薄だった住民間のつながりを密にし、地域への帰属性を強めることにより、ひいては地域の価値を高めています。

また、それら支援事業の優秀事例を冊子で紹介するほか、アパート住民共同のホームページを開設するなど、地域共同体を形成するとともに他地域へのPRも図っています。

おわりに

「光州はとても住みやすいまちです。人口が一四〇万人を超える大都市でありながら、家から繁華街や駅、空港など生活に必要な所へすぐに行くことができます」と、光州の方が誇らしげに語ってくれました。そして、光州で地域づくりが成功しているのは



↑美味でボリューム満点の料理は光州の魅力の一つ

「かつて民主化運動で表現されたように、市民の地域に対する愛着心の強さが多分に影響しているから」だとも。

韓国では本格的な地方自治が始まってからまだ十数年に過ぎず、依然として国家の影響力が強いのが現状です。どの地方都市に行っても駅前地域や駅舎がきれいに整備されていますが、個性のない画一的なまちが量産されているように感じます。

国家均衡発展と地域づくりー矛盾している施策のようですが、光州市の取り組みを見ると、これから韓国地方自治体の進むべき道が見つかるとは思いません。